



大学改革試案（骨子）

【問題意識】

日本の高等教育は、日本及び世界をとりまく情勢の大転換に取り残され、戦後 60 年間根本的な改革が実施されてこなかった。現状は、「大学の自治」の名の下での教員の身分保障、センター試験導入や教養課程の軽視により、教育レベルは低迷・凋落し続け、グローバルに活躍できる人材を育成できていない。

【高等教育の目標】

「エリート教育」の確立：他者や社会のために尽くす意欲と能力のある者の育成

- ① グローバルな人材＝コミュニケーション能力
- ② 幅広い教養＝日本及び世界の歴史・伝統・文化への深い理解と大局的な判断力
- ③ 人格形成＝日本人としての誇りを基礎に、世界的な視野に立った寛容・公共の精神

【提言】

（1）教育レベルの世界標準化

① 大学の選択と集中

現在では 1000 を超えている大学の淘汰と差別化を進め、グローバルリーダーを養成する大学へ資源を集中。英語による授業・討論、卒業認定厳格化を実施。

② 教員の質の向上

真に能力の高い教員のみを維持するため、学生・第三者も含めた評価に基づく任期制を導入。優れた研究業績を持つ教員による真剣な教育を確保。

③ 教員へのサポート体制

留学生を含めた多くの学生に質が高く、きめ細かな教育を施せるよう、優れた教員には事務的サポート体制を充実。教員の能力と努力を待遇面でも反映。

（2）教養教育の充実

① 英語を含めた外国語教育の強化と教養科目の奨励・重点的評価

② 日本人の伝統・価値観についての深い理解と外国人への説明能力の育成

（3）学期中の勉学への集中と大学外経験の充実

① 予習としての多読、寮制度の導入（1 年生）等による学期中の勉学への集中

② 自分の環境を客観的に理解し、人生についての問題意識を醸成するため、ギャップターム（イヤー）を利用して、社会奉仕活動や留学を実施。

③ 企業や社会が求める人材との連動を進め、休暇中のインターンシップや社会人による実践的授業を幅広く導入

